

【公益・重点事業】文教・社会環境

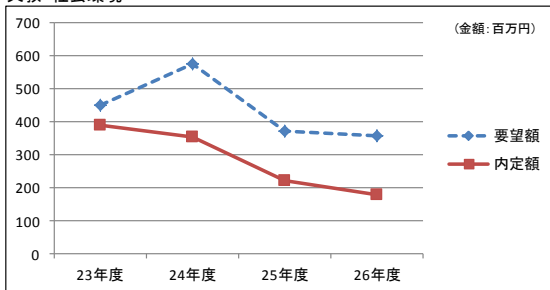
1. 補助の目的・概要

子どもの健全な成長に直接つながる文教・社会環境に関する事業は、今後のわが国を支えていく大切な存在であることから、特に重要な事業分野と位置付けている。

子どもの創造力開発、不登校・引きこもりに対する支援、子どもを育てていく環境づくりとして、地域の安全・安心につながる活動や更生保護活動に関する事業を支援した。

2. 補助実績(件数・金額)

文教・社会環境



年度	要望数 (件)	要望額 (百万円)	内定数* (件)	内定額* (百万円)
23年度	16	451	16	389
24年度	26	576	17	355
25年度	25	373	16	222
26年度	21	357	15	180

※辞退となった事業を除く

平成 24 年度においては、26 件 5 億 7,649 万円の補助要望があり、そのうち自転車と人にやさしい健康で安全な社会作りを推進する活動、親と子のふれあい交流活動、地域に根ざしたこどもの自然・文化・遊び体験活動、引きこもり・不登校に対する支援活動、犯罪被害者に対する支援活動、事故や犯罪から子どもを守る活動計 16 件に 2 億 975 万円、更生保護施設の建築 2 件に 1 億 5,200 万円、合計 18 件 3 億 6,175 万円の支援を行った。

なお、18 件の内定事業のうち、完了延期となった事業が 1 件、計画変更となった事業が 4 件、法人の解散による辞退が 1 件あった。

3. 補助事業の事例

<p>(N)犬山市民活動支援センター</p> <p>自然の素晴らしさ、偉大さ、怖さ、また仲間との接し方とありがたみを知るため、里山・川・海において子ども自然教室等を開催し、地域に根ざしたこどもの自然、文化、遊び体験活動に支援した。</p>	
<p>(N)星槎教育研究所</p> <p>ひきこもり・不登校の若者・子どもたち、またその保護者に対応するため、支援員の養成講座や当事者や家族を対象にした研修・相談会、家庭へのアウトリート支援活動に支援を行った。</p>	 <div data-bbox="1155 730 1246 999" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; text-align: center;"> 研修・相談会の様子 </div>
<p>(更)三重県保護会</p> <p>頼るべき親族や身寄りのない刑務所出所者等を受け入れ、社会復帰の支援を行うことによって犯罪を防止し、地域社会の安全や住民福祉を守るため、更生保護施設の建築事業に支援を行った。</p>	<div data-bbox="906 1039 1062 1106" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">寮生居室</div> →  <div data-bbox="839 1346 995 1413" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">施設全景</div> 

4. 補助事業の成果等

事故や犯罪から子どもを守る活動として補助を行った（公財）全国防犯協会連合会では、「こどもが危険を察知して、自分で自分を守るための具体的実践行動」を訴求テーマとする教材 DVD を作成、全国に配布し、警察や防犯協会が開催する保護者や防犯ボランティアを対象とする講習会等で活用された。

(N) 犬山市民活動支援センターの会が行う子ども自然教室・生き物探検隊クライマックス・新冒険教室は、昨今少なくなっている自然体験と集団活動を行い、青少年の情緒を育んだ。

更生保護施設については、(更)三重県保護会と(更)島根更生保護会の施設の建築について補助を行った。更生保護施設は頼るべき親族や身寄りのない刑務所出所者を受け入れ、社会復帰の支援を行うものである。島根県更生保護会は建築前より定員を 5

名増やし、三重県保護会は特別処遇室の新設により高齢者及び障害者の受け入れ体制も整えた。

その他、引きこもり・不登校に対する支援活動 2 事業、犯罪被害者に対する支援活動 3 事業に支援を行い、安全・安心な社会作りに寄与した。

5. 補助事業の評価

事業完了後の事業者の自己評価の総合評価は、評価対象 36 件(1 補助事業で複数項目を評価していることがあるため、前段『2. 補助実績』の件数とは異なる)のうち、5 段階評価で、評価 5 [極めて高い]が 4 件、評価 4 [比較的高い]が 25 件、評価 3 [ほぼ問題ない]が 7 件であり、事業としてほぼ計画通り事業が行われ、成果が得られたとの評価であった。

事業者の自己評価等を踏まえ J K A で評価を行ったところ、A++[極めて高い]が 4 件、A+[比較的高い]が 27 件、A [概ね十分]が 4 件の計 35 事業で、ほぼすべての事業が A 以上となり、事前に計画していた事業の目標は達成され、広報状況を含めた J K A 評価においても概ね十分とする水準を満たしていると評価できる。

一方、当初の計画に比して事業の遅れがあり、計画の一部が補助事業完了までに実施されず、広報の一部も実施されなかったといった、一部未達成の B 評価が 1 件あった。

なお、この分野における講座開催やシンポジウム開催等イベント開催事業において、参加費に収入として消費税がかけられることや、組織を構成する人員の高齢化、借上げた会場の動線がわかりにくく興味を持ってくれた参加者を会場に誘導できなかったなどの阻害要因が挙げられた。これら阻害要因の自己分析を行い、その結果を今後も事業を実施していくにあたっての改善に生かしていくことが望まれる。